

平成 20 年度前期・岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程入学試験問題

講 座	経済理論・統計、比較経済、政策科学、 経営学、会計学、組織経済学
専門科目	マクロ経済学

以下の 2 問とも解答しなさい。なお、問題ごとに別々の解答用紙を用いなさい。

問1 以下の文章は財政政策の有効性について論じたものである。()内に、最も相応しい語句または人名を所定の解答用紙に書きなさい。

上村敏之『はじめて学ぶ国と地方の財政学』日本評論社、2005 年、127-130 頁より。

問2 あるマクロ経済における経済変数が以下のように記述されるものとする。

$$\text{生産関数} \quad Y_s = 48\sqrt{N}$$

$$\text{労働供給} \quad N = 1$$

$$\text{消費関数} \quad C = \frac{3}{5}Y + 13$$

$$\text{投資関数} \quad I = 7 - 4r$$

$$\text{政府支出額} \quad G = 40$$

$$\text{貨幣の取引需要関数 (実質)} \quad L_1 = \frac{1}{3}Y$$

$$\text{貨幣の投機的需要関数 (実質)} \quad L_2 = -5r + 60$$

$$\text{名目貨幣供給} \quad M = 50$$

ただし、 Y_s は実質総生産、 Y は実質国内所得、 N は労働量、 C は実質民間消費、 I は実質民間投資、 r は利子率、 G は実質政府支出、 L_1 と L_2 はそれぞれ実質貨幣の取引需要と投機的需要、 M は名目貨幣供給量を表す。この経済は閉鎖経済であり、国際部門は考えなくてよいものとする。以下の(1)～(10)に答えなさい。

- (1) 労働の限界生産力を求めなさい。
- (2) 労働市場での均衡が満たされるときに総生産額 (Y_s) を求めなさい。
- (3) 労働市場での均衡が満たされるときの実質賃金がいくらとなるか求めなさい。ただし、古典派の第一公準が満たされるものとする。
- (4) IS-LM 分析における IS 式を $Y = \dots$ の形で求めなさい。ただし、財・サービス市場の均衡条件は $Y_s = C + I + G$ であるが、ここでは生産関数を用いず有効需要の原理から $Y_s = Y$ として答えなさい。
- (5) IS-LM 分析における LM (貨幣市場均衡) 式を $Y = \dots$ の形で求めなさい。ただし、実質貨幣需要は取引需要と投機的需要の加算で表されるものとする。また、物価水準は P において答えなさい。
- (6) 問(4)と(5)の解答結果をもとに、総需要曲線の式を $Y = \dots$ の形で求めなさい。
- (7) 総需要・総供給 (AD-AS) 分析における均衡の物価水準を求めなさい。
- (8) いま、名目貨幣供給が 45 に減少したとする。このとき、完全雇用が維持されるとすると、物価水準がいくらとなるか求めなさい。
- (9) 問(8)と同じだけの物価水準の(大幅な)変化があったとする。このとき、名目賃金が完全に下方硬直的であれば失業率は何%となるか求めなさい。
- (10) 総需要・総供給 (AD-AS) 分析において、問(9)の失業率をゼロに改善するためには政府支出をどれだけ増加させればよいか。増加分を求めなさい。ただし、名目貨幣供給量は 45 であるとする。

以上